

愛川の自然 第22号

平成 27 年 4 月 19 日 (日) 発行

リーフレットができました

「いこいの森の生きものたち」

**A3 両面印刷 A6 ポケットサイズにも
協働事業の啓発・観察の手引きに活用**

八菅山いこいの森周辺は山や谷が入り組んだ地形から成り立っています。ここに樹齢 100 年を超える巨木を混じえた照葉樹林や雑木林が広がり、あちこちに清水の湧く池や流れがあります。植物はドングリをはじめ大量の種子や落葉を生産し、動物は相互のつながりの中で食餌や子育てをしています。獣や野鳥、昆虫にとってもまたとない住み心地のよい所でもあります。このような、生き物によって構成された自然の仕



組みを「生態系」と呼んでいます。八菅山いこいの森を歩くと、豊かな自然環境の中に多くの生き物の営みを身近に見ることができます。また、

ここを訪れる私たちにとっても、清浄な空気の中で小鳥の鳴声や風の音、森の発するアロマーを浴びてセラピー体験のできる健康にとってもこの上ない良好な空間にもなっています。

サークル愛川自然観察会が愛川町との協働事業によって進めている「いこいの森の青空博物館の機能を高める事業」の一環として、会員が持ち寄った写真をもとにしたリーフレット「いこいの森の生きものたち」がこのたび完成しました。

リーフレットはこの森にすむ生きもの 36 種を紹介するとともに協働事業の内容を多くの人たちに知ってもらい、自然環境の保全に協力を願うことを内容としたものです。A3 サイズ両面カラー刷りで、折たたむとポケットサイズの A6 となるものです。あおぞら館の他、町の都市施設課、サポセン、郷土資料館、公民館等に置きました。

すでに設置してある看板と合わせて、トンボ池の生態系を歪めている外来種等についての情報発信の一つでもあります。多くの人の理解と協力を期待しています。



活動報告

2015.1 ~ 2015.3

第 88 回観察会 1 月 10 日 (土) 場所; 宮ヶ瀬ダムサイト 上流橋の木橋付近 テーマ; シモバシラの観察 参加者約 10 名

八菅山あおぞら館冬の自然観察会 1 月 11 日 (日) 場所; 八菅山いこいの森観察路 テーマ; 野鳥と冬越しする生きものの観察 参加者 8 名

あいかわ公園 1 月の自然観察ガイド 1 月 25 日 (日) 場所; 県立愛川公園内石小屋ダム周辺 テーマ; オシドリを見に行こう 参加者約 15 名

あいかわ公園 2 月の自然観察ガイド 2 月 22 日 (日) 場所; 県立愛川公園パークセンター テーマ; 樹木名板を作ろう 参加者約 3 名

第 89 回観察会 3 月 7 日 (土) 場所; 津久井城山湖 テーマ; 冬のこりと猛禽類の観察 雨天中止

あいかわ公園 3 月の自然観察ガイド 3 月 22 日 (日) 場所; 県立愛川公園パークセンター テーマ; 樹木名板を作ろう 参加者約 11 名

見どころスポット

その 8 : 「向山尾根ハイキング路」

半原地区の北方に東西に連なる山を向山 (むこうやま) と言います。東の端の富士居山 (愛川中学校の裏山) から西の端の大峰 (津久井町葎尾根寄り) まで尾根づたいにおよそ 3km のハイキングコースが整備されています。

昔のような山仕事が行われなくなって歩く人も途絶え、長い間消滅寸前だった山道を、愛川山岳会のご尽力によりルートの整備が行われハイキングコースとして復活し、案内板も設置されています。

木々の間から半原地区や仏果山が雄大な視野で捉えられ、また、宮ヶ瀬ダムサイトも壮観に眺められます。大峰付近には半原地区のテレビ電波受信施設の鉄塔も 3 基建てられています。

この尾根コースまでの登り口は半原側に 2 つ、反対側の志田側に 2 つ、富士居山と津久井の清正光 (朝日寺) それぞれにもありますが、いずれもやや急な傾斜を登らなくてはなりません。やや健脚向きと言ったところです。市街地とは隔絶した多様な森林が続き、明るい陽の注ぐ空間もあり、小鳥の鳴き声や動物の生活痕が観察され、森林浴としても好適な場所で、一度は歩いてみたいコースです。

・身近な自然・

N06: 貝化石カネハラニシキ

フィリピン海プレートの移動速度はおおよそ 5cm/年とされています。この速さは人の感覚からするとあまりにもゆっくりですが、500 万年間には 250 kmの距離を移動する計算になります。移動するプレートが本州に近づくと地下深く沈み込んでいくが、このくぼみをトラフ(大規模なものは海溝)と言います。プレートに乗った丹沢山塊が本州に衝突する前(と言っても 1000 万年以上前の昔)には両方の間には海峡のような海があったと考えられています。カネハラニシキはこの時代の海に生息していた貝です。



丹沢山塊が基になった地層に産出する唯一の貝化石で、しかも寒流系の貝。親潮(寒流)は現在とは違った流れであったことを裏付けるもので、学術的にも特筆されています。

丹沢山塊は 600 万年程前に本州に接近し、その後の衝突(と言ってもゆっくり、5 cm/年)によって大きな圧力を受けた丹沢周辺の地層は高くせり上がり、仏果山を含む山地となったのです。その時の断層が「藤野木-愛川構造線」で、カネハラニシキを産する地層はこの構造線のすぐ南側の地層で愛川層群中津峡層と呼ばれています。法論堂林道や動の入沢等で見られます。

植物標本をつくってみませんか

県植物誌調査に参加しませんか

以前にはなかった植物が最近目に付くようになってきています。ナガミヒナゲシ、ヒルザキツキミソウ、オッタチカラバミなど挙げるときりがありません。反対に昔は普通に見られたものがすっかり姿を消してしまった植物もあります。カララナデシコ、エビネ、イカリソウなど、中には絶滅危惧種と呼ばれるようになったものもあります。また、道路脇に生えている植物は圧倒的に外来種です。

こうした植物に起こっている変化を調べるために神奈川県植物誌調査会が発足して 40 年がたちました。調査の成果はおおよそ 15 年ごとにまとめられ、1500 ページに及ぶ「神奈川県植物誌」として過去の 2 回刊行されてきています。

住宅や工業用地、霊園などとして開発が進められる一方で耕作放棄地や手入れの行き届かない植林地の増加などの環境の変化に加え、外来種の侵入等による影響も大きな要

因であると言われています。

現在 3 回目のまとめに向けて調査が進められています。また、調査の裏付として植物の乾燥標本づくりも行われています。標本をつくることは、その土地にその時代に生育していたことの証拠にもなり、神奈川県内での分布状況を明らかにしたり、過去との比較や将来の変化を調べる上での学術的に意義あるものです。

愛川町周辺地域の標本は愛川町郷土資料館に収蔵されています。調査は平成 17 年まで続けられます。興味のある人は標本づくりに参加してください。標本をつくり和名を特定していく作業は植物への愛着が湧き、理解が深まります。標本は採集者名をつけて永久に保存されます。

会員の横顔！！

サークル愛川自然観察会は現在 29 名の会員います。年齢構成は 30 歳代 3 名、40 歳代 3 名、50 歳代 8 名、60 歳代 3 名、70 歳代 8 名、80 歳代 2 名(いずれも推定)で、元氣な 70 歳代が中心になっているようです。男女別では男 16 名、女 13 名となっていて、バランスの良い男女比です。愛川町内在住者は 15 名、厚木市在住者 13 名、座間市在住者 1 名となっています。

会員の皆さんは、それぞれに自然に関心が高く、長い間自然観察を続けてこられた方から、興味や関心はあったがチャンスに恵まれなかった方、散歩やハイキングを趣味にしていたが自然観察もやりたいと言う動機で入会した方など、入会のきっかけは様々ですが、楽しんで参加されているようです。ベテランから初心者まで、協力し合って楽しい時間を作っています。

サークルからのお知らせ

- 1、身近での発見や観察記録など、本通信やホームページへの投稿をお願いいたします。手紙、電話、ファクス、メールでも結構です。できれば写真も添えていただければ幸いです。写真だけの記録でも OK です。
- 2、サークルからのお知らせは可能な限りメールでお伝えすることになっています。メールアドレスをお持ちの方は代表までお知らせください。なお、不定期でのお知らせになりますので、時々メールボックスをご覧ください。受信をご確認ください。サークル愛川自然観察会のホームページでも同じ内容が確認できますので、こちらもときどき覗いていただきたいと思います。

サークル愛川自然観察会通信 愛川の自然

NO22 号 2015-4-19 発行

E-mail : ya1ma1gu0chi4@ksh.biglobe.ne.jp

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~aikawashizenkansatu/>

編集人: 山口勇一 Tel・Fax: 046-281-1891